【広島県】

広島市立広島工業高等学校

平和の板金術師

高校生ボランティア・アワード2023

「平和の板金術師」

活動概要

平和都市広島の工業高校生が習得した技能・技術を活用して、平和の想いを込めた銅板で製作した折り鶴を平和活動のために寄贈しています。

活動事績

2005年（平成17年）
・銅板折り鶴の製作を3年生の課題研究の一環として授業へ導入
2009年（平成21年）
広島市長を表敬訪問される方へ記念品として「銅板折り鶴」を寄贈
2010年（平成22年）
第１１回ノーベル平和賞受賞者世界サミット２０１０広島」の受賞者に対して手渡しで贈呈
2013年（平成25年度）
「銅板折り鶴」の売り上げの一部（２万円）を「広島市原爆ドーム保存事業基金」に寄付（以降継続中）
2015年（平成27年度）
被爆７０周年に当たり、２年越しで製作した「銅板折り鶴」千羽を原爆の子の像へ献納（現在広島市中央図書館に展示）
2016年（平成28年度）
国連軍縮フェローズで来広する２５か国の若手外交官等２５名と国連職員２名へ、２羽１組の銅板折り鶴（合計５４羽）を贈呈
2017年（平成29年度）
ＩＣＡＮのベアトリス・フィン事務局長へ記念品として手渡しで贈呈
2019年（平成31年度）
カトリック広島教区の依頼でカトリック教会広島司教区へ行き、カトリック広島司教区の屋根材を使用した「銅板折り鶴」6羽を手渡した。のちにローマ教皇へと記念品として贈呈
2020年（令和2年度）
国際平和のための対話イベント「ＮＵ７５　ｉｎ　ＨＩＲＯＳＨＩＭＡ」に参加された国連事務局長中満泉氏に記念品として贈呈
2022年（令和4年度）
高校生ボランティア・アワード2022にブース発表で参加（東京）
2023年（令和5年度）
第50回日本銅センター賞受賞

グテーレス国連事務総長との対話

平成30年　ボランティアアワード参加

カトリック広島司教区の屋根材を使用した「銅板折り鶴」

銅センター賞受賞

活動目的 『平和の想い』

本校では、私たちが習得した技能・技術を活用して、教育や社会貢献するプロジェクト『広島市工　サイエンス工房』が平成27年度に発足しました。

「こんなモノが欲しい」
「こんなモノを作って欲しい」

など、校外からものづくりの依頼を受け、担当する工業科や部を決め、科目「課題研究」や部活動として、毎年継続して取り組んでいます。これまでに依頼され、寄贈した作品は

①修繕者椅子（ネパールへ寄贈）
②3Dプリンターで制作したフェイスシールド
（広島市医師会耳鼻科医会へ寄贈）
③キャスター付きおみこし台
（仁保新町町内会より依頼）
④窓清掃訓練用アルミサッシ
（広島市立広島特別支援学校より依頼）
⑤理科教材CO2計測装置
（広島市内の小中学校へ寄贈）
⑥木製靴入れ
（広島市立幼稚園より依頼）
⑦朝礼台への手すりの取り付け
（広島県立広島中央特別支援学校より依頼）

などです。「銅板折り鶴」も校外から多くの依頼を受け、製作に取り組んでいます。生徒はものづくりを通じて、学んできた技能・技術を発揮すると共に、社会貢献に力を注いでいます。

『手の中の平和～継承～』

３年生の「課題研究」で、ものづくりを通じて社会貢献をしようと、毎日、参加を希望する生徒がいます。一日でも早く技術を習得しようと努力を惜しまず、試行錯誤を重ねながら取り組んでいます。いくつかの苦悩を乗り越え、完成した時の喜びは、ひとえに感無量の「達成感」しかありません。この完成した「銅板折り鶴」がより多くの方の手に届いてほしいと、日々練習を重ね、製作に取り組んでいます。また近年は、本校生徒だけが製作するのではなく、いろいろな方に製作に携わってもらおうと、校内外の各種イベントで高校生が指導役となって、一般の方にも製作に参加していただける機会をつくっています。なかなか見栄えの良いモノはできませんが、完成した「銅板折り鶴」を手に取ったときの喜びは格別で、製作した方も指導役の高校生も満面の笑みを浮かべています。子どもから大人まで、年齢や職業も多様な方々に体験していただき、本校生徒の活動の様子を、市民の方々に広く知っていただく貴重な機会になっています。今後も、多くの方に喜びを伝えていけるこの活動を続けていきたいと思っています。

日々の活動①

日々の活動②

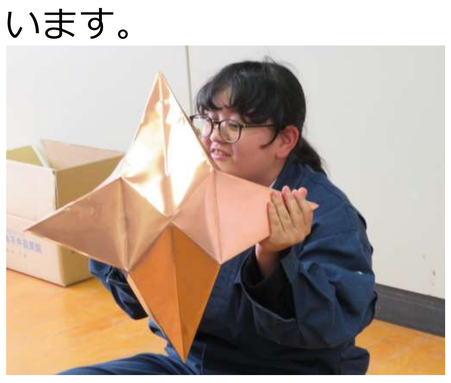
広島市民平和文化イベント（来場者に指導中）

国連軍縮フェローズ

有限会社広陽板金の高澤浩子さん来校

活動目標『繋ぐ』

過去・現在・未来と17年間延べ100名の生徒が、この取り組みを続けてきました。多くの方との出会いがありました。ボランティア活動の一環として行ってきたこの活動も、金銭で得るモノではなく、多くの方の支援を受け、そして力添えがあったからこそ、続けられた取り組みだと感じています。
「ものづくり」から取り組んできたことが、今は「へいわづくり」へと発展しつつあります。小さいことからコツコツと行ってきたことが実を結ぼうとしています。
これからも多くの先輩方が築き上げたものを、より一層深めると共に、多くの出会いに感謝しながら、後輩達へ継承していくことが、これからの繋がりであり、大切なことだと感じています。



集合写真

プロフィール

有限会社広陽板金の高澤浩子さんの協力・支援を得て、平成17年度より「課題研究」の一つとして活動を開始。ものづくりを通じて平和活動に貢献し、現在まで至る。
17年に渡り100名以上の生徒がを輩出してこられた沢田和則教諭が転勤になり今年度から担当教員が変わったが、祈りを込めた銅板折り鶴を製作し、多くの方の手にとってもらえるように今年度も7名の生徒と共にが活動している。「平和の板金術師」とは、広島の工業高校生が一生懸命製作する姿を見て呼ばれるようになったのが由来である。